

プラスチック製文房具のリサイクル活動

～慶應義塾中等部～

本校では2023年から「PILOT 使用済みペン リサイクルプログラム」に参加しています。ここでは、プラスチック製文房具のリサイクルに関する2024年の主な活動をいくつか紹介します。

(1) 入学記念品（4月）

新入生歓迎会の日に、新しく入学した1年生への入学記念品として、「リサイクルボールペン（Re.Pen）」を在校生からプレゼントしました。

(2) 海岸でのごみ拾い（4月）

2年生は4月の遠足で江ノ島の海岸を訪れて、マイクロプラスチックやその元となるごみを拾い集めました。海洋プラスチック問題について学習しています。

(3) 特別授業（5月）

3年生の選択授業で、パイロットコーポレーションの方に特別授業を行っていただきました。

① 回収したペンの分解

プラスチック、金属、繊維などに分別した後、プラスチックを比重分離してポリプロピレンを抽出しました。後日、オリジナル定規にしてくださいました。



② ペンの組み立て体験

補充式蛍光ペン、リサイクルボールペンの組み立てを行いました。

③ 万年筆について学習

特別授業の最後は、万年筆について学びました。ひとつひとつのパーツを組み立てながら、ペン先の仕組み、インキの入れ方（回転式コンバーター）などについて教えていただきました。

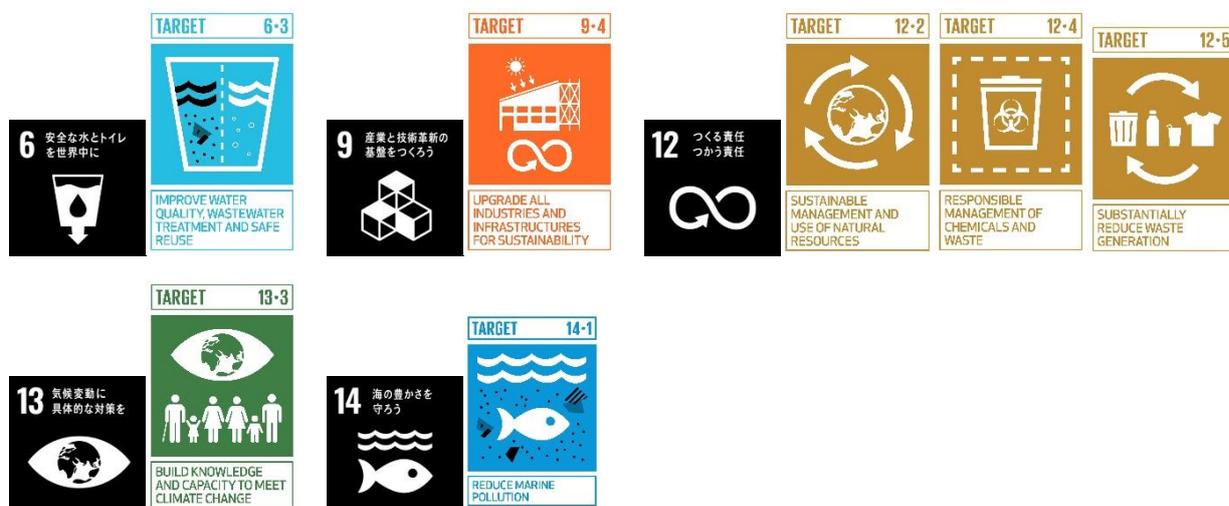


(4) プラスチック製文房具の回収・発送（12月）

昨年に引き続き、11月の展覧会では、不要となったプラスチック製文房具を回収する予定です。また、学期ごとに落とし物展示（3・7・12月）を行っていますが、持ち主の分からない落とし物も合わせて、12月には TERRACYCLE 社（無料リサイクルプログラム）を通じて発送することにしています。

(5) SDGs の目標・ターゲットを分析

プラスチック製文房具のリサイクル活動が SDGs の 17 目標（ゴール）のうちどの目標に関わるのか分析してみました。



目標については、以下の5つに関わっていると判断しました。

目標6 すべての人々が水と衛生施設を利用できるようにし、持続可能な水・衛生管理を確実にする

目標9 レジリエントなインフラを構築し、だれもが参画できる持続可能な産業化を促進し、イノベーションを推進する

目標12 持続可能な消費・生産形態を確実にする

目標13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を実施する

目標14 持続可能な開発のために、海洋や海洋資源を保全し持続可能な形で利用する

また、より具体的な目標であるターゲットについては次のようになりました。

- (6.3) 2030年までに、汚染を減らし、投棄をなくし、有害な化学物質や危険物の放出を最小化し、未処理の排水の割合を半減させ、再生利用と安全な再利用を世界中で大幅に増やすことによって、水質を改善する。
- (9.4) 2030年までに、インフラを改良し持続可能な産業につくり変える。そのために、すべての国々が自国の能力に応じた取り組みを行いながら、資源利用効率の向上とクリーンで環境に配慮した技術・産業プロセスの導入を拡大する。
- (12.2) 2030年までに、天然資源の持続可能な管理と効率的な利用を実現する。
- (12.4) 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクル全体を通して化学物質や廃棄物の環境に配慮した管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小限に抑えるため、大気、水、土壌への化学物質や廃棄物の放出を大幅に減らす。
- (12.5) 2030年までに、廃棄物の発生を、予防、削減（リデュース）、再生利用（リサイクル）や再利用（リユース）により大幅に減らす。
- (13.3) 気候変動の緩和策と適応策、影響の軽減、早期警戒に関する教育、啓発、人的能力、組織の対応能力を改善する。
- (14.1) 2025年までに、海洋堆積物や富栄養化を含め、特に陸上活動からの汚染による、あらゆる種類の海洋汚染を防ぎ大幅に減らす。

パイロットコーポレーションの方々にはたいへんお世話になりました。

どうもありがとうございました。